

博士論文（要約）

大学の属性を考慮した大学図書館蔵書の特徴の分析
：所蔵図書の数と属性に着目して

山田 翔平

本研究では、大学図書館蔵書の実態を記述した。経済学、理学、文学、工学の4つの学問分野を取り上げ、分野ごとに関連のある学部を有する大学を対象とし、大学の属性を考慮しつつ、蔵書进行分析した。大学の属性としては、主に大学生に意識される大学の違いに関わる属性を取り上げた。これを通して、大学の属性の違いと大学図書館の蔵書の関係を記述的に明らかにした。

第1章では、研究の目的、枠組み、意義、背景について述べた。本研究では、多様な大学との関係に置かれる大学図書館蔵書の実態を明らかにするという問いを設定し、大学図書館蔵書の実態をこれまでよりも高い解像度で記述することを目的とした。記述の視点として利用者の視点を設定し、大学図書館の利用者として大学生を想定した。大学との関係を問う上で、大学の属性を考慮することが求められる。本研究では、大学生に意識される属性として、偏差値、設置形態、所在地の3つのを取り上げた。本研究は図書館情報学と教育学に関連し、前者においては大学図書館研究、後者においては高等教育研究との関わりが深い。大学図書館研究における本研究の意義は、大学図書館蔵書を、その性質が把握できるような解像度で記述すること、まさにそのことである。現状では、大学図書館蔵書について説明を与える研究や、蔵書を要因として組み込む研究の前提としての、蔵書に関する調査と記述自体が不足している。そのような現状に対して、本研究は大学図書館蔵書に対して説明や解釈ではなく、解像度の高い記述を与え、今後の精緻な議論や分析の拠り所となる基盤を提供する。高等教育研究における本研究の意義は、大学図書館という大学生の主要な学習環境の一部を明らかにすることにある。また、本研究の問いと成果は、大学図書館研究と高等教育研究の双方に接する研究の土台となり、両領域の橋渡しの役目を果たすことが期待できる。背景に関しては、大学図書館の機能、及び大学の多様化の実状を述べ、改めて大学の属性を考慮した大学図書館蔵書研究が必要であることを確認した。

第2章では、関連研究を概観した。近年の日本の大学図書館研究、大学図書館蔵書研究、及び日本の大学類型論の3つについて、それぞれ整理をした。近年の日本の大学図書館研究については、研究の動向を確認し、大学図書館研究全体で見られるアプローチの傾向を捉えた。研究対象ごとに概観し、課題を整理した結果、複数の大学図書館を対象に調査、分析を行う研究に関して大学との関係で問う研究が少ないことが示された。本研究の直接の先行研究となる大学図書館蔵書研究については、目的の観点から概観し、成果と課題を整理した。成果について整理した結果、既往研究によって、

1. 特定の図書館における蔵書の詳細な特徴
2. 少数の図書館の蔵書の相対的な特徴
3. 資料の分布

が明らかにされてきたことが示された。課題について整理した結果、大学図書館蔵書について、

- A. 大学の属性から見た大学図書館の蔵書の特徴
- B. 資料の属性から見た大学図書館の蔵書の特徴
- C. 大学図書館に所蔵される資料全体の特徴

の3点がこれまでに十分に明らかにされていないことが示された。この状況に対して、本研究はA

と B の不足を補うものであることを確認した。日本の大学類型論については、本研究の分析で用いる大学の違いを導出する前段階として整理した。類型化の課題として研究者以外の視点から大学を捉えた類型化がないことが得られ、大学生の視点から見た大学類型化については新たに検討する必要が示された。

第 3 章では、研究の対象、方法について述べ、次章以降の分析に先立って基本的なデータを提示した。対象のうち資料について、大学図書館の主要な資料は、図書と雑誌であるが、大学生の学習・教育の上で中心となる資料は図書であること、及び大学生が意識する大学の違いから蔵書を捉えることを踏まえ、図書を対象とした。記述の範囲を明確にするため図書を、印刷資料であり、49 ページ以上であるものと定義した。また、日本の大学の学士課程教育では和文図書を用いることが多く、一部の大学を除いては和文図書が蔵書の半数以上を占めることから、対象を図書のうち本文言語が日本語のものに絞ることとした。図書のデータは、国立情報学研究所の目録所在情報サービスが提供する図書書誌データセット（2017 年 4 月公開のもの）を使用した。分析で着目する資料の属性は基本的に書誌情報として記述される属性を用いた。具体的には以下の 6 つの属性を用いた。

1. 日本十進分類法（NDC）
2. 日本図書コードの分類コード（C コード）
3. ページ数
4. 価格
5. 出版年
6. 出版者

対象のうち大学については、学校教育法に基づいて設立される大学を対象としたが、第 103 条で規定される大学院のみの大学、及び第 108 条で規定される短期大学は除いた。大学のデータは、東京大学大学院教育学研究科大学経営・政策コースが作成した 2016 年度版大学情報データベースを使用した。大学の属性は、大学生が意識する大学の違いを参照したいが、大学生の視点からの大学類型化は検討されていないこと、また、一旦ある大学に入学した者は他の大学との違いを体系立てて考えることをあまりしないことから、学生になる直前の段階である大学受験者に注目し、大学受験者が大学選択の際に意識する大学の違いを参照した。高校生の大学選択に関する 2 つの調査資料を参照して大学選択において重視される項目を整理し、大学情報データベースのデータと照らし合わせながら、分析に用いる大学の属性を抽出した。抽出の結果、

- A. 学部の偏差値
- B. 設置形態
- C. 所在地

が得られた。

本研究では、これらの属性の違いによる蔵書の違いを捉えやすくするために、経済学、理学、文学、工学の 4 分野を取り上げ分析した。学問分野ごとに、関連する学部を有する大学を取り出し、分野に関連のある蔵書を分析対象とした。関連する学部は、経済学は経済学部、理学は理学部、文

学は文学部，工学は工学部とした。各分野に関連するタイトルの設定には，NDC を参照し，

- 経済学に関連のあるタイトルを，NDC の第 2 次区分 33（経済）に分類されるタイトル
- 理学に関連のあるタイトルを，NDC の第 1 次区分 4（自然科学）に分類されるタイトル
- 文学に関連のあるタイトルを，NDC の第 1 次区分 9（文学）に分類されるタイトル
- 工学に関連のあるタイトルを，NDC の第 1 次区分 5（技術. 工学）に分類されるタイトル

とした。ただし，理学に関しては，NDC の第 1 次区分 4（自然科学）のうち第 2 次区分 49（医学. 薬学）は，医学，及び薬学という確立した分野との関連が強いから除いた。工学に関しても，NDC の第 1 次区分 5（技術. 工学）のうち第 2 次区分 59（家政学. 生活科学）は，工学分野との関連が弱いから除いた。各分野に関連のあるタイトルのうち，出版年が 1981 年から 2015 年のものを分析対象とした。大学によっては複数の図書館・図書室があるが，本研究では，一つの大学を一つの図書館機構と捉えることとした。分野ごとの最終的な対象校は，経済学 120 校，理学 41 校，文学 103 校，工学 97 校となった。

本研究では，属性ごとに大学群に分け，各群の特徴を観察するとともに，群間で蔵書を比較した。比較に際しては，

- I. 所蔵タイトル数の違い
- II. 異なりタイトルの構成の違い

の 2 つに着目した。I については，

- 各分野に関連のあるタイトルの所蔵タイトル数の違い
- NDC の下位区分の分類ごとの所蔵タイトル数の違い
- C コードの情報のあるタイトルの所蔵タイトル数の違い
- C コードの分類ごとの所蔵タイトル数の違い

を分析した。

II について，資料の各属性の観点から異なりタイトルの構成の違いを大学群間で比較した。異なりタイトルとは，特定の大学集合について，その集合を形成する大学いずれかに所蔵のあるタイトルの重複を取り除いた集合と設定した。大学群ごとの異なりタイトルについて，

- NDC の下位区分で見た内訳の違い
- C コードで見た内訳の違い
- ページ数で見た構成の違い
- 価格で見た構成の違い
- 出版年で見た構成の違い
- 出版者で見た構成の違い

を分析した。大学の属性ごとの群分けについて，偏差値においては，60 以上，50 以上 60 未満，50 未満の 3 群に，設置形態においては，国立大学，公立大学，私立大学の 3 群に，所在地においては，

| 分野 | 学校数 | 平均値 | 中央値 | 標準偏差 | 変動係数 |
|-----|-----|-----------|-----------|-----------|-------|
| 経済学 | 120 | 18,734.14 | 16,814.00 | 9,089.98 | 0.485 |
| 理学 | 41 | 20,287.34 | 18,732.00 | 6,047.93 | 0.298 |
| 文学 | 103 | 19,179.83 | 16,528.00 | 11,973.22 | 0.624 |
| 工学 | 97 | 17,871.99 | 15,919.00 | 9,135.37 | 0.511 |

表1 学問分野ごと全大学の所蔵タイトル数の記述統計量

都市部とそれ以外の地域の2群に、それぞれ分けた。所在地の都市部は、政令指定都市に東京特別区を加えた21大都市とした。

各分野で分析対象とした異なりタイトルの総数は、経済学で97,273タイトル、理学で53,369タイトル、文学で170,926タイトル、工学で113,574タイトルであった。分野ごと対象とした大学の所蔵タイトル数の記述統計量は表1にあるとおりである。所蔵タイトル数の比較においては、記述統計量と正規Q-Qプロットを参照した。図1から図4は、分野ごと対象とした大学の所蔵タイトル数の正規Q-Qプロットである。正規Q-Qプロットでは観測データの分布と標準正規分布が比較される。正規分布は、典型的には誤差分布として、多くの要因が特に特徴なく関与するときに現れるもので、観測データが正規分布に従うならば、それは対象がそれほど個別の例外などなく、全体としてある一定の特徴を有するというための一応の目安とすることができることから、正規Q-Qプロットを採用した。

第4章では経済学、第5章では理学、第6章では文学、第7章では工学、それぞれの分野ごとに分析を行った。以下に各章の分析で示された主な特徴を挙げる。

第4章（経済学）の偏差値の分析では、偏差値のより高い群の方が所蔵タイトル数が多い傾向にあることや、偏差値のより高い群の異なりタイトルの方がページ数の少ないタイトルの占める割合が高いことが示された。設置形態の分析では、国立大学は所蔵タイトル数が安定して多くなっていることや、私立大学は所蔵タイトル数の散らばりが大きいこと、私立大学の異なりタイトルでは336（経営・管理）の占める割合が国立大学・公立大学よりも高いことが示された。所在地の分析では、NDC第3次区分の分類ごとの所蔵タイトル数の違いについては群間の違いのパターンは類似していることや、価格・出版者の観点から見た異なりタイトルの構成について差異はないことが示された。

第5章（理学）の偏差値の分析では、偏差値中位程度の大学の所蔵タイトル数は近いことや、偏差値のより高い群の異なりタイトルの方がページ数の少ないタイトルの占める割合が高いことが示された。設置形態の分析では、公立大学は2校のみと少ないが所蔵タイトル数は高水準にあることや、国立大学は45（地球科学・地学）の所蔵タイトル数が多い傾向にあることが示された。所在地の分析では、44（天文学・宇宙科学）から48（動物学）では、21大都市の群の方が所蔵タイトル数が多い傾向にあるが、これらの分類に比べれば、41（数学）、42（物理学）、43（科学）では、群単位の所蔵の様態に違いがないことや、その他の地域の群の異なりタイトルの方がページ数の少ないタイトルの占める割合が低いことが示された。

第6章（文学）の偏差値の分析では、偏差値のより高い群の方が所蔵タイトル数が多い傾向にあることや、偏差値のより高い群の異なりタイトルの方が価格の安いタイトルの占める割合が高いことが示された。設置形態の分析では、私立大学は所蔵タイトル数の散らばりが大きいことや、国立大学は、92（中国文学）、94（ドイツ文学）、95（フランス文学）の所蔵タイトル数が安定して多い傾向にあること、公立大学は国立大学・私立大学に比べてCコード第1桁1（文庫）の所蔵タイトル数が少ない傾向にあることが示された。所在地の分析では、NDC第2次区分の分類ごとの所蔵タイトル数の違いについては群間の違いのパターンは類似していることや、その他の地域の群の異なりタイトルの方がページ数の少ないタイトルの占める割合が低いことが示された。

第7章（工学）の偏差値の分析では、偏差値中位程度の大学の所蔵タイトル数は近いことや、偏差値の高い群の異なりタイトルでは51（建築工学・土木工学）の占める割合が高いことが示された。設置形態の分析では、53（機械工学）、54（電気工学）、55（海洋工学・船舶工学）では、他の第2次区分の分類に比べて群単位の所蔵の様態に違いがないことや、国立大学の異なりタイトルは価格の観点から見ると幅広いタイトルを含んでいることが示された。所在地の分析では、21大都市の群の方が全体・第2次区分の分類ごといずれで見ても所蔵タイトル数が多い傾向にあることや、異なりタイトルの内訳はNDC・Cコードいずれの分類で見ても違いがないこと、出版年・出版者の観点から見た異なりタイトルの構成について差異はないことが示された。

第8章では、総合分析として、大学の属性ごとに学問分野によらず共通して見られる蔵書の特徴、学問分野ごと大学の属性による蔵書の特徴、学問分野ごとの蔵書の性格の3点を、4章から7章までの分析結果から整理した。本研究の最大の関心である大学の属性ごとに学問分野によらず共通して見られる蔵書の特徴について、属性ごとに主なものを挙げる。偏差値に関しては、偏差値のより高い群の方が所蔵タイトル数が多い傾向にあることや、偏差値の低い群では所蔵タイトル数の散らばりが大きいこと、偏差値の高い群の異なりタイトルでは他の群に比べてページ数が少ないタイトルの占める割合が高いことが得られた。設置形態に関しては、国立大学は所蔵タイトル数が安定して多い傾向にあることや、私立大学には所蔵タイトル数の少ない大学から多い大学まである傾向にあること、全体として公立大学の異なりタイトルの内訳・構成が国立大学・私立大学に比べて異なる傾向にあることが得られた。所在地に関しては、21大都市の群の方が所蔵タイトル数が多い傾向にあることや、Cコードの分類で見た異なりタイトルの内訳、及び出版年・出版者の観点から異なりタイトルの構成については違いがないことが得られた。

第9章では、8章で整理された大学の属性ごとに学問分野によらず共通して見られる蔵書の特徴について考察を加えた。また、成果が示されたところで改めて本研究とその成果の意義を提示し、最後に今後の課題を述べた。本研究の成果の意義は、大学図書館蔵書について解像度の高い記述を与えたことである。本研究が提示した問いそのものにも意義がある。大学を捉える視点として大学生の視点を取り上げ、その視点から意識される大学の差異と大学図書館蔵書の関係を問うたが、これは大学図書館研究と高等教育研究を結び付ける方法の一つを提示したといえる。

課題については、本研究の枠組みと直接的に関連する課題と本研究の目的と関連する課題を述べた。本研究の枠組みと直接的に関連する課題としては、資料の属性の観点からより詳細な分析を行うこと、他の資料の属性に着目して分析すること、他の学問分野を取り上げて分析すること、他の

大学の属性について分析することの4点を挙げた。本研究の目的と関連する課題としては、和文図書以外の図書について本研究と同様の方法で分析すること、和洋の雑誌について本研究の同様の枠組みで分析すること、大学図書館に所蔵される資料全体について特徴を分析すること3点を挙げた。

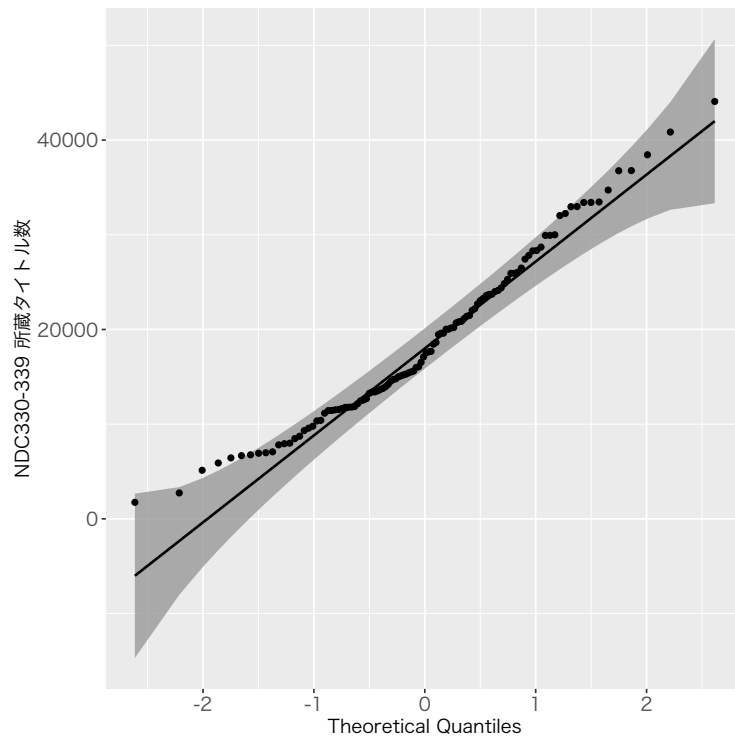


図1 経済学部のある大学 120 校の所蔵タイトル数の正規 Q-Q プロット

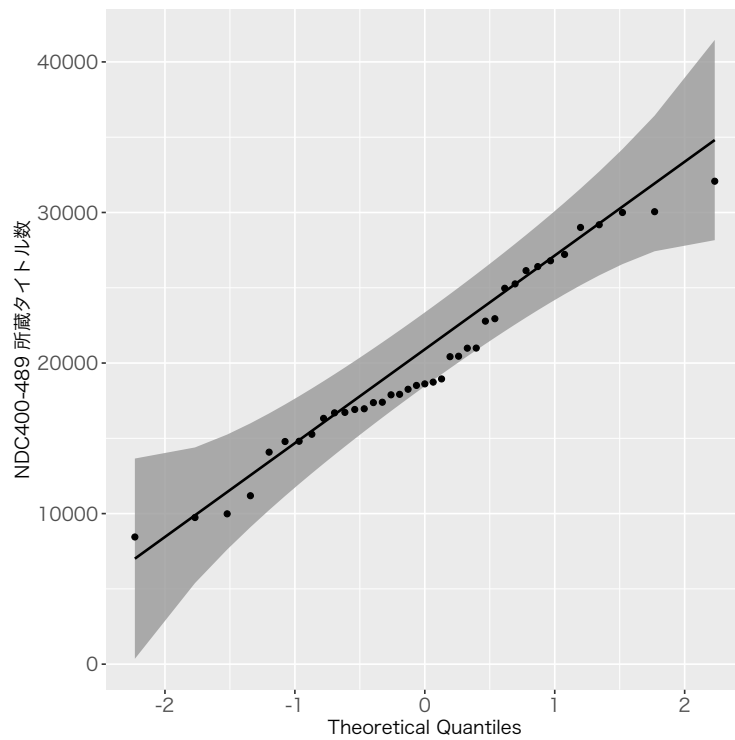


図2 理学部のある大学 41 校の所蔵タイトル数の正規 Q-Q プロット

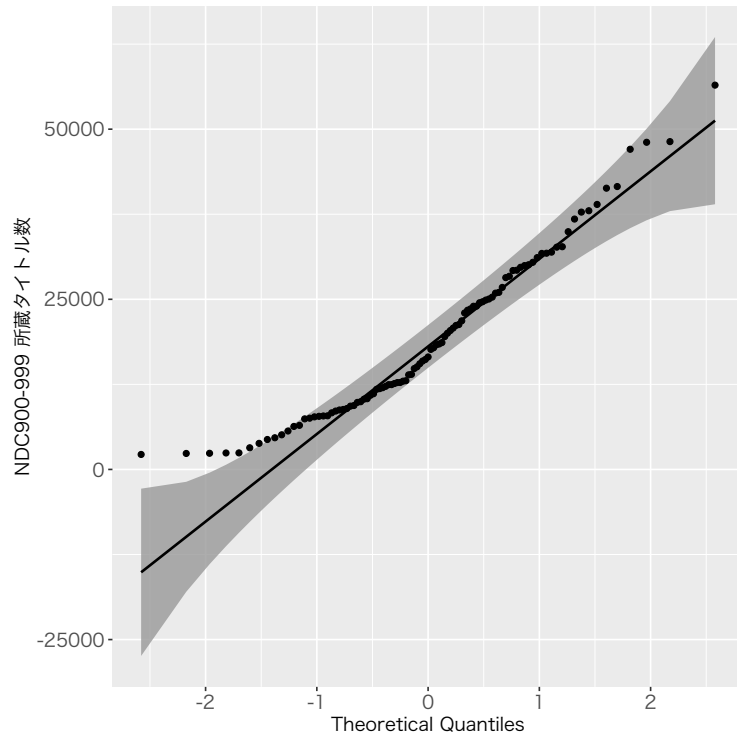


図3 文学部のある大学 103 校の所蔵タイトル数の正規 Q-Q プロット

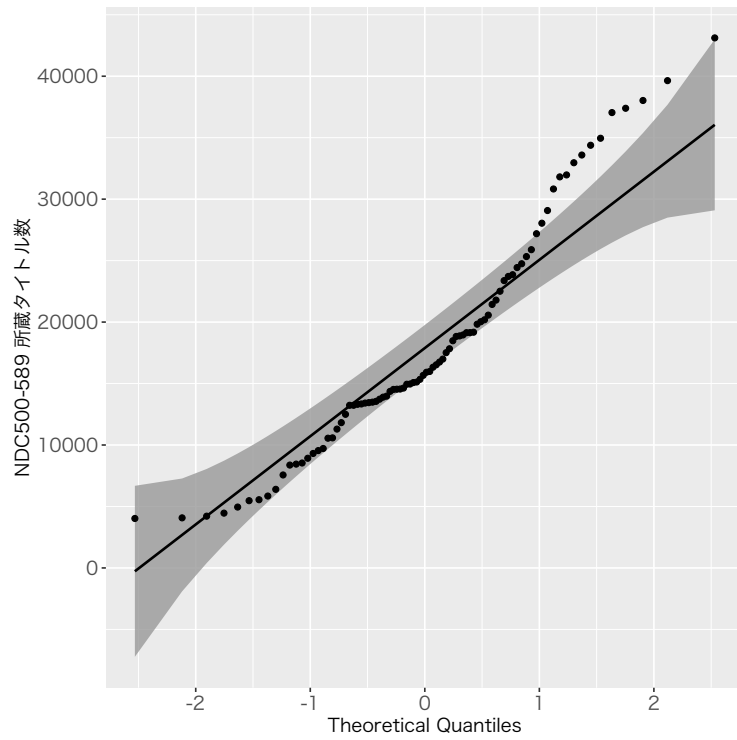


図4 工学部のある大学 97 校の所蔵タイトル数の正規 Q-Q プロット